

答え合わせ・解説

問1	答え 1 遣唐使	遣唐使は7世紀から9世紀にかけて、朝廷が中国へ送った外交使節団です。空海や最澄ら多くの僧侶や留学生が渡り、仏教の教えや政治制度、芸術などを持ち帰りました。これにより日本の社会や文化は大きな影響を受けました。
問2	答え 1 浄土教美術	浄土教美術は、阿弥陀如来や極楽浄土の華やかな世界を絵画、彫刻、建築に込めた芸術です。平等院鳳凰堂の内部にある華麗な障壁画や、阿弥陀如来坐像などは、当時の最高の職人や芸術家によって作られました。繊細な装飾や美しい色彩は、平安貴族の優雅で洗練された文化を象徴しています。
問3	答え 2 清少納言	清少納言は、中宮定子に仕える中で見聞きしたことや、四季の美しさなどを鋭い観察眼で書き記しました。これが日本最古の随筆である『枕草子』です。理知的な文体と、当時の宮廷社会の様子を描いた内容が特徴です。
問4	答え 3 空海	空海は唐で密教を学び、帰国後に真言宗を開きました。密教とは、高度な修行と儀式を重んじる仏教の宗派です。彼は嵯峨天皇から高野山を下賜され、そこに金剛峯寺を建立して修行の拠点としました。多くの弟子を育て、学問の面でも大きな足跡を残しました。
問5	答え 1 院庁	院庁は、院政における実務的な行政機関であり、上皇の意志を国家政策として実行する役割を持ちました。ここで出される命令は「院宣」と呼ばれ、強い権力を持っていました。組織として整備されることで、摂関政治とは異なる独自の政治体制が確立されました。
問6	答え 1 藤原道長	藤原道長は、娘を次々と天皇の妃として入内させることで、天皇の外戚として揺るぎない地位を確立しました。この強力な血縁関係を武器に、政治の決定権を独占し、藤原氏による統治の最盛期を現出させました。
問7	答え 4 摂政	摂政は天皇が幼い間に代わって政務を行い、天皇が成人した後も補佐する役割として「関白」が置かれました。これら一連の政治形態を摂関政治と呼びます。藤原氏は代々この地位を独占し、天皇をしのぐ権力を握りました。
問8	答え 3 遣唐使の廃止	894年、朝廷で活躍した菅原道真の建議により、遣唐使の派遣は停止されました。この決定により、それまで唐から学んでいた制度や文化の影響が弱まり、日本独自の「国風文化」が発展する契機となりました。
問9	答え 2 紫式部	紫式部は藤原道長の娘に仕えた女房であり、宮廷社会の複雑な恋愛や人間模様を描いた長編小説『源氏物語』を執筆しました。当時の貴族の優雅な生活や、内面的な感情まで細やかに描き出したこの作品は、日本文学の最高峰とされています。
問10	答え 1 藤原頼通	藤原頼通は、摂政・関白として約50年間政治の実権を握りました。当時、貴族たちの間では自分の財力や権力を誇示しつつ、極楽浄土に往生したいという切実な願いがありました。頼通はそれに応えるように、京都の宇治の地に壮大な平等院鳳凰堂を建立し、阿弥陀如来像を安置させました。
問11	答え 2 武士	武士は、自らの土地や一族の生活を守るために武装した、地方の豪族や有力者たちです。彼らは互いに団結して武士団を形成し、朝廷の命を受けて反乱の鎮圧などを担うことで、次第に力を蓄えていきました。
問12	答え 3 紫式部	紫式部は、中宮彰子に仕える女房として宮廷で生活しながら、全54帖からなる『源氏物語』を執筆しました。この作品は、貴族社会の人間模様や恋愛、栄枯盛衰を細やかに描いた世界文学の傑作です。また、彼女が日々の生活や宮中の様子を書き留めた『紫式部日記』も、当時の歴史を知るための貴重な資料となっています。
問13	答え 1 北面の武士	白河上皇が御所の北側に部屋を設けて警護させたことから「北面の武士」と呼ばれます。彼らは単なる警備員ではなく、実力行使の手段として上皇の信頼を受け、次第に政治的な発言力を持つようになりました。
問14	答え 1 厳島神社	平氏一族は、安芸国にある厳島神社を厚く信仰し、社殿を豪華に造り替えました。海に浮かぶようなその姿は、当時の建築技術の高さと、貴族化した平氏の優雅な文化を今に伝えています。
問15	答え 1 法華経	法華経は、天台宗が最も重視する経典で、「すべての人は平等に救われ、仏になることができる」という教えを説いています。最澄はこの経典に基づき、人々に正しい修行と理解を求めました。この包摂的な教えは、特定の僧侶だけでなく、多くの人々に仏教の門戸を開く役割を果たしました。
問16	答え 4 平清盛	清盛は日宋貿易を積極的に進め、経済的な力を高めました。航海の安全を祈願して、瀬戸内海の厳島神社を厚く信仰し、豪華な社殿を整備しました。平氏の権力は全盛を迎え、一族で朝廷の高位を独占するまでになりました。